

学校企画実施計画書 (宮崎市立池内小学校)

1. 企画テーマ名称

「ネットワーク活用での表現力の育成
～いろいろな人との交流を通して相手にわかりやすく伝えよう～」

2. 企画のねらい

本実践では、「自分の考えを相手にわかりやすく伝える」という「表現力の向上」という点に焦点を当て、情報通信機器を用いたネットワークを活用して様々な人たちとの交流を通し、児童の表現力の向上を目指したい。交流については、様々な人々との交流の場を設定し、いろいろな視点から本校児童と関わってもらうことにする。具体的には「同学年の児童との交流」「異学年児童との交流」「大学生との交流」「関係機関（博物館等）との交流」を行っていく。これらの交流では、次のような視点で取り組むことを考えている。

「同学年の児童との交流」 ・・・学習内容も同じなので、同じ内容等共通な点が多い。 「異学年児童（5年生）との交流」 ・・・上学年の立場から、違った視点で見てもらうことができる。 「大学生との交流」 ・・・児童が知らないことなど、広い視野からの視点で見てもらうことができる。 「関係機関（博物館等）との交流」 ・・・専門的な立場から、詳細な情報を教えていただいたり、助言したりしていただける。
--

交流内容については、植物（ケナフ、桜島だいこん等）の栽培活動や総合的な学習の時間の取り組みである環境問題、社会科を中心とした教科学習を進めていく。ネットワークについては、ホームページによる発信の場、電子掲示板による意見交換・情報交換の場、電子メールによる個別の意見交換・情報交換の場、テレビ会議システムによる直接的な意見交換・情報交換の場を設定する。

評価については、ポートフォリオの考えを生かし、各交流で活用した資料等をファイル等に整理して、活動後には見直し自己評価をする時間をとるようにする。また、教師側はその資料を客観的にみて必要に応じて助言を中心とした的確な支援を行うようにする。

3. 年間スケジュール

本実践の実施を考えたときに、機器のリテラシー等の育成も必要になってくる。そのため、大まかに次のような年間の計画によって実施する。

1学期：リテラシー育成を中心とした活動（詳細スケジュールは 4 に）
2学期：交流校への表現活動（詳細スケジュールは 5 に）
3学期：1年間のまとめ

4. ネットワーク活用における機器のリテラシー育成スケジュール

本実践では、ネットワークを活用した表現力の育成を目指すため下記のような項目のリテラシーの育成に取り組む。1学期間をリテラシー育成期間とし、2学期以降を実践期間とする。

テレビ会議（システム・・・NTTフェニックス）
電子掲示板・電子メール
ホームページ
ビデオメール

具体的スケジュールは次の通りである。

【スケジュール】

月	テレビ会議	電子掲示板・電子メール	ホームページ	ビデオメール
4	テレビ会議体験 (博物館との交流)	ローマ字入力練習	デジタルカメラ の操作練習	
5	交流校との顔合わせ	掲示板への書き込み練習	ホームページ作成練習	
6	毎週テレビ会議	メール書き込み練習	学級ホームページ作成	交流校へのビデオメールの作成
7				

また、パソコン等を活用した表現力を高めるために、富士通のサイト「FATHeRS」の毎月のコンテストを活用し、デジカメや各種ソフトを活用して自分の考えを表現する場を設定する。

5 交流について

(1) 実施体制

実施学年としては4年生(32名)を中心に行う。また、実践教科は社会科・総合的な学習の時間を中心とする。

《本校の総合的な学習の時間の取り組みについて》

- 1 単元名 「夢・花・力」プロジェクト ~身近な環境を考え、私たちにできること~
- 2 単元の考え方

育てたい児童の姿及び単元の価値

本単元は、本校の合い言葉である「夢・花・力」を生かして、夢(こうしたいという思い)・花(きれいな環境)・力(自分にできること)で、身近な環境に対して自分たちでできることを考え実践していくプロジェクトである。本プロジェクトでは、特に次の3つの能力の育成に重点をおく。

- ・ 様々な方法を活用して情報を収集し、自分なりの考えをもつ力
- ・ 調べたことや考えたことを自分なりの方法でまとめ表現していく力
- ・ 社会の一員として、身近な環境に対して積極的に関心を持ち、より良くしようとする態度

本単元の活動は、身近な環境を見て回る体験活動を行ったり環境問題やそれに対する全国各地での取組などを調べたりして、身の回りの環境に対して自分たちでどんなことができるかを考え実践していくものである。本単元の学習を進めることにより、児童は様々な手段を使って情報を収集し調べていく方法を学ぶことができる。また、調べたことをもとに自分なりの方法で身近な環境をより良くしようとする取り組み活動を通して、自分の考えをまとめ表現していく力を育成することができる。さらに、身近な地域から環境問題を自分の問題としてとらえ、自分の生活をより良くしようとする態度の基礎を培うことができる。

児童の関心・意欲

本学級の児童(男子14名、女子18名)は、たいへん素直で男女の仲も良い。学習中の態度も、積極的に発言したり、楽しく学習に取り組もうとしたりする態度が見られる。4月より、パソコンを使って絵や文を使ってコンクールに応募したり、毎日休み時間に交代でキーボード操作やマウス操作の練習をしたりしている。また、4月に福岡マリンワールドとのネットワーク授業を行い、サメの体について学習する中で、食物連鎖のことがわかり、環境が崩れることで社会に様々な影響がであることを教えていただいた。

児童は、これまでに社会科で「水」の学習をし、春の遠足で「浄水場」「ゴミ処理場」などの見学を行い、環境に対する関心が高まっている。また、3年時には、福祉についての学習を行って

おり、「人のため」ということを少しずつ考え始めている。

放課後は、近くの公園や空き地で遊ぶことが多く、地域の様々な施設等を活用している。しかし、使っている施設等の環境はどうなっているかという視点では見ていないようである。

活動内容と教師の支援

そこで、本単元では、本校の合い言葉より「夢とは」「花とは」「力とは」それぞれどういうことを考え、身近な環境を見直し、それに対して自分たちでできることを考え実践しようという目的を持たせることから始める。

その後、身近な環境の散策を行い、感想を話し合い、「環境」ということについて考えてみる。体験活動後に、現在日本で抱えている環境問題や他の地域での環境に対する取組について目を向けさせ、環境へ対する関心・意欲を高める。その際、インターネットやテレビ会議、ビデオ等の様々な手段を活用して情報の収集の仕方を学ぶ支援をする。また、自分たちの周りの環境と他地域の環境と比較したりする場も設け、「環境」ということを十分に考える時間を与えたい。児童の活動を活性化させ意欲を持続させるために、インターネット・テレビ会議等を活用した他県の学校や関係機関との交流を行ったり、「全国発芽マップ」に参加し環境問題と関連の深い「ケナフ」という植物の育成にも取り組んでいく。このように様々な視点を与え、児童の活動を活性化し支援していく。さらに、参観日の授業でも本単元の学習を行い、保護者の協力も求め、家庭でも「環境」について考える場を持っていただくようにする。

以上のような活動を軸に1学期間は「思いを持つ、見通しを持つ」段階にし、夏休み期間中に自分でどのような取り組みができるかを考える期間とし、2学期から「活動する・あらかず・ひろげる」段階とする。この段階では、自分なりの思いを持ち、友だちと協力しながら自分たちの考える方法で環境をよりよくするための活動を実践していく。実践後、必ず活動を見直す時間をとり、この時間では、教師との話し合いをする時間を設け、児童の思いを大切にしながら適切な助言を行うようにする。身近な環境をきれいにしたい（花）という自分の思い（夢）を自分にできること（力）を活用して実践していく活動を繰り返し行っていくことにより、自分の考えをまとめ表現していく力を育成しながら、身近な環境と関わり合い「自分のよさ」を見つめ直し生活をより良くしようとする児童を育てていきたい。

なお、本実践における交流校は以下の通りである。

同学年：熊本県上村小学校

異学年：富山県水橋中部小学校

大学生：宮崎大学教育文化学部学生及び院生

（宮崎大学では、これまで同県内の本郷小や越野尾小の児童との交流の経験がある）

博物館等：科学系博物館活用ネットワーク推進事業の活用

また、ネットワークを活用した様々な情報発信ができるように、デジタルカメラ等も随時貸し出し活用できるようにする。インタ-ネット可能な県内の学校や関係機関にもメールを送付し、可能な限りの協力を依頼する。

【各学校との交流内容】

	交 流 内 容
熊本 上村小学校	社会科、総合的な学習の時間（環境問題）等に関する取り組みを紹介し合う。
富山 水橋中部小学校	総合的な学習の時間に関する取り組みを紹介したり、栽培している植物（ケナフ）などを通じた、日常的な交流（毎週金曜日にテレビ会議）を進める。
宮崎大学	総合的な学習の時間の取り組みの発表を行い、感じたことやより工夫する点を指摘してもらう。
博物館等	自分が疑問に思っていることを要点を押さえ、様々な手段を使って質問する。

なお、上記以外の学校等との交流も必要に応じて積極的に推進しながら、表現する場を設けていく。

（2）交流実施スケジュール

月	上村小学校	水橋中部小学校	宮崎大学	博物館等について
4		交流内容検討		
5	交流内容検討	交流内容決定	交流依頼	ネットワーク授業1(サ)についてリリンク
6	交流内容決定 ビデオメールの送付 テレビ会議(全体)	テレビ会議(全体) 毎週金曜日グループごとにテレビ会議による交流		九州地域ネットワーク授業への参加(随時)
7	テレビ会議・電子掲示板による交流 (必要に応じて電子メールも活用)	電子掲示板への書き込みによる交流		
8			交流内容検討 交流打ち合わせ	
9		毎週のテレビ会議を継続		
10	社会科学習のまとめの発表会(テレビ会議)	総合的な学習での取り組みについて定期的にホームページ及びテレビ会議で発表	総合的な学習の取り組みの発表	
11	総合的な学習の取り組みの発表			
12	社会科学習のまとめの発表会(テレビ会議)			
1	総合的な学習の取り組みのまとめの発表会			1年間の交流の整理
2	1年間のまとめ	1年間のまとめ		

テレビ会議においては、次のような3つの体制をとることとする。

class to class・・・全体での交流，様々な表現の様子を知ることが目的とする。

group to group・・・少人数での交流，テレビ会議に慣れることと表現力を高めることを目的とする。

one to class (group)・・・専門家などに様々なことを聞く事を目的とする。